

ナシの摘らい

県北農林事務所農業振興普及部
J Aふくしま未来福島地区本部

1 気象経過

(1)経過(アメダス福島)

月	半月	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hrs)		
		本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年比(%)	本年値	平年値	平年比(%)
1月計・平均		1.2	1.6	-0.4	5.1	5.5	-0.4	-2.1	-1.8	-0.3	24.5	49.4	50	108.6	132.0	82
2月計・平均		4.0	2.2	1.8	9.6	6.5	3.1	-0.6	-1.5	0.9	59.5	44.3	134	159.2	142.3	112
3	1	8.2	3.5	4.7	14.8	8.2	6.6	0.7	-0.4	1.1	2.5	9.6	26	34.6	26.6	130
	2	5.6	4.1	1.5	12.6	9.0	3.6	0.6	-0.1	0.7	0.0	10.5	0	42.2	27.7	152
	3	8.5	4.9	3.6	13.8	10.0	3.8	3.9	0.4	3.5	30.5	11.7	261	19.5	28.6	68

(2)1か月予報(3月20日から4月19日)3月18日仙台区気象台発表抜粋

【特に注意を要する事項】期間の前半は気温がかなり高くなる見込み。

東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込み。

向こう1か月の平均気温は、高い確率 70%。週別の気温は、1週目(3/20～3/26)が高い確率 80%、2週目(3/27～4/2)が高い確率 70%、3～4週目(4/3～4/16)が高い確率 40%。

2 生育状況および開花予測

発芽は「幸水」で平年より9日早く、
「豊水」で10日早い(果樹研究所)

(1)生育状況【発芽から展葉】

場 所	品 種	発 芽			展 葉		
		本 年	平 年	昨 年	本 年	平 年	昨 年
果樹研究所	幸 水	3月24日	4月 1日	3月23日	未	4月15日	4月 7日
	豊 水	3月20日	3月30日	3月22日	未	4月11日	4月 4日
野 田	幸 水	3月24日	4月 2日	3月26日	未	4月17日	4月12日
	豊 水	3月21日	3月31日	3月24日	未	4月12日	4月 9日

(2)開花予測

開花予測日 [3月22日現在] 果樹研究所

場 所	品 種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
		昨年	平年	平年並	2°C高い	2°C低い
果樹研究所	幸 水	4月16日	4月21日	4月21日	4月16日	4月26日

開花始めは、今後の気温が2°C高く経過した場合、「幸水」で平年より5日早い見込み

*今後の気温の推移により大きく変動することがあるので注意する。

発芽



発芽1週間



開花始め



満開



○発芽～開花始めまで平年は約20日間、○発芽～満開まで平年は約24日間

(3)本年の生育の特徴

2月以降の気温が高く推移しているため開花が大幅に前進する見込みです。発芽1週間後および開花直前防除を遅れないように実施しましょう。また、この時期の生育は気温の影響が大きいため、今後の気温の推移によって変動幅は拡大するので注意しましょう。

福島県果樹研究所における発芽・開花期

幸水	平年値	H14	H30	H28	H16	R2	H01	H02	H13	H27	H10	H21	R1	H25	H03	H06
発芽	4/2	3/24	3/28	3/28	3/29	3/23	3/24	3/29	4/5	3/29	3/31	4/2	3/25	3/29	4/6	4/6
開花始	4/21	4/11	4/11	4/13	4/16	4/16	4/17	4/17	4/17	4/17	4/18	4/18	4/18	4/19	4/20	4/20
満開	4/26	4/16	4/16	4/19	4/20	4/22	4/19	4/23	4/23	4/22	4/21	4/24	4/22	4/27	4/24	4/23

3 着果管理

(1) 摘らい

昨年の低日照・多雨の影響もあり、園地により発芽のバラツキが見られます。摘らいを行うことで貯蔵養分の効率的な分配により、春先から枝が伸び、葉の枚数も多く樹勢が良くなって、大玉で高品質な果実生産につながります。

(2) 時期と方法

最も適した時期は、発芽してから10～12日頃(平年)になります。蕾の上部を指で軽く押さえ花の軸を折ってやります。このとき、葉芽まで折らないように気をつけてください。

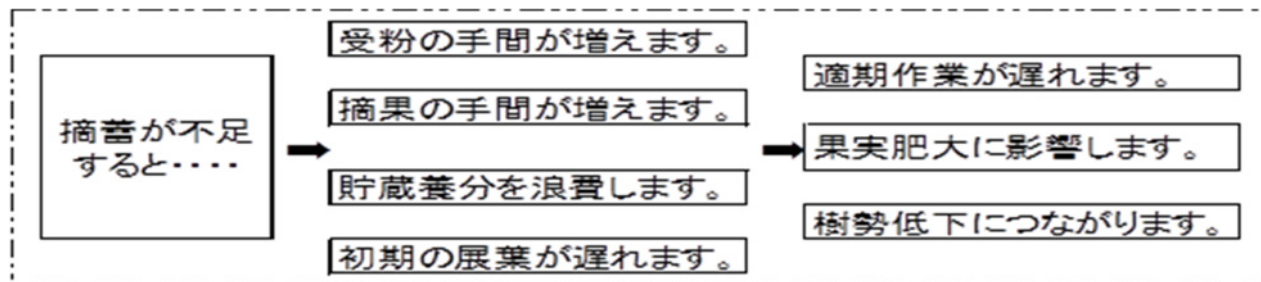
(3) 摘花

摘蕾できなかった場合や取り残しがあった場合に、余分な花を摘み取りま

写真1 摘らいの適期

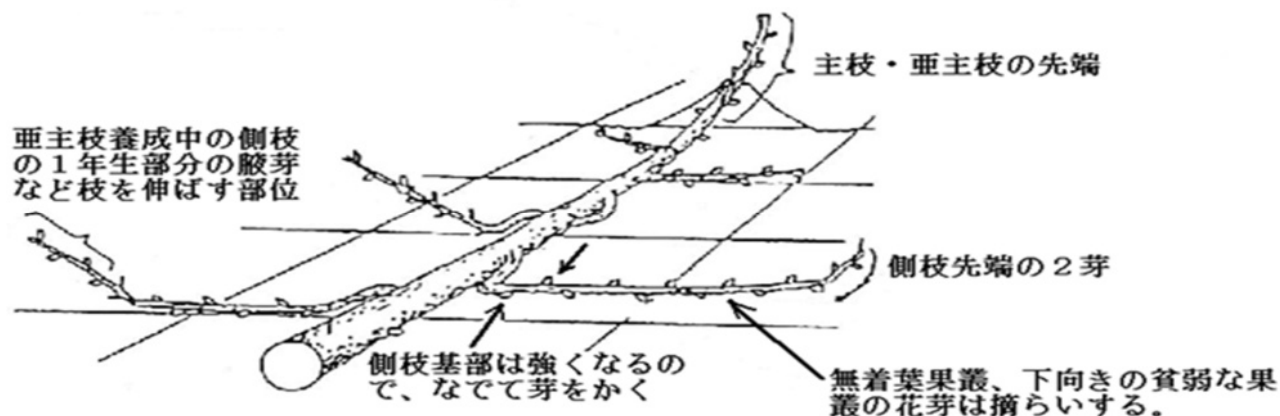


(4) 摘らいの必要性



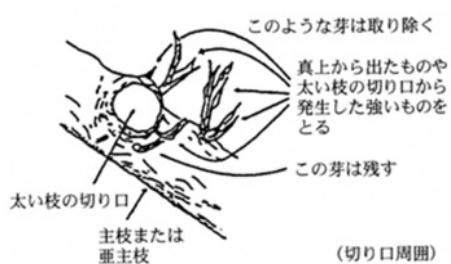
(5) 摘らいを行う部分

- ①主枝・亜主枝の先端部 ②側枝先端の2芽 ③予備枝 ④主枝・亜主枝上の花芽
⑤複数の花芽を持つ短果枝 ⑥下向きの貧弱な果そう ⑦子持ち花の小花



4 芽かき

貯蔵用分の浪費を抑えるとともに、不要な芽(下芽など)を整理しましょう。



5 防霜対策

本年は、生育が進んでおり、凍霜害の発生が心配されます。

園地の状況を確認し、結実確保に向けて防霜対策を徹底するとともに、結実確保（人工受粉など）に努めましょう。



- ① 防霜資材を利用した燃焼法による対策。点火は安全限界温度より1℃高い温度で行います。
- ② 草を短く刈り込みます。(地温を上げるため)
- ③ 空気や土壌が乾燥している場合にはかん水します。(乾燥していると気温が低下しやすい)

表 日本ナシの安全限界温度

(単位:℃)

発育ステージ	花蕾露出期	花弁露出始期	花弁白色期	開花直前	満開期	幼果期
花芽の状態						
安全限界温度	-2.9	-2.5	-1.8	-1.8	-1.3	-1.3

※1 安全限界温度は、植物体温度がこの指標以下に30分間おかれた場合、わずかでも花芽が障害を受ける恐れがある温度。

2 花蕾露出期は、未着色のほとんどの花蕾が見え始める頃。花弁露出始期は、花弁が見え始める頃。花弁白色期は、花弁が白くなった時期。

果樹の霜・低温による被害軽減に天然糖類のトレハロース入り

○アイスバリア ℞

【保証成分 リン酸：1.5%、カリ：1.0%、マグネシウム：1.5%】

1. トレハロース（天然糖類）の効果
○冷凍耐性向上 ○鮮度保持 ○変色抑制 ○水分量調整
2. 使用方法 果樹全般に使用可（農薬と混用可。散布量は農薬散布量に準ずる）
3. 使用時期 霜、低温が予想される前（芽出し10日後から使用可）
4. 使用回数 1～3回
5. 使用倍数 333倍（1000ℓに3本）
6. 参考価格 2,541円（税込）

★ 開花しても受粉に影響はありません。乾燥時にはアイスバリアの効果で保水力がアップするので受粉効果は高まります。

★ 効果の期間は7日間が目安です。降雨があれば効果は半分程度になりますのでご注意ください。

5 受粉上の留意点

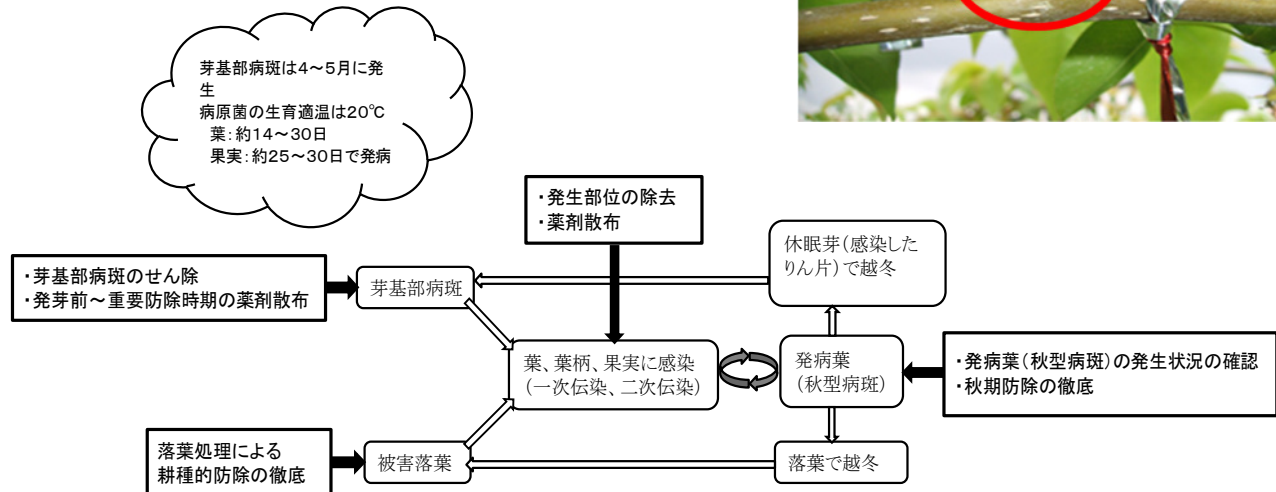
ナシ花の受精能力が高い時期は、開花後3日までです。ひとつの花に対し1回よりも2回受粉すると、幼果の肥大が良くなります。花粉の発芽伸長適温(18～30℃)であれば、受粉後3時間以降に雨が降っても受精にはほぼ影響がありません。天気が悪い時(気温が低い、風が強いなど)や例年結実の悪い場所などは、丁寧に受粉を行いましょう

6 黒星病対策

黒星病の孢子飛散は3月29日現在確認されていません。(昨年は3月17日に確認しました(果樹研)。開花期前後の薬剤散布を徹底し、初期の発病を抑えましょう。また、4月下旬には黒星病の花そう基部病斑(中、長果枝の花芽にりん片が脱落しないで付着)が判別しやすくなるので、丁寧に除去しましょう。

〔昨年度(R2)の孢子飛散期間〕

3月17日～5月下旬まで(果樹研究所調査)



なし黒星病の生活環と防除対策

【 な し 】 幸水・豊水・あきづき等 (防除暦77～78頁参照)

散布回数	散布時期	対象病虫害	薬剤の種類及び濃度(水1000㍗あたり)	SS 散布量
1	発芽 1週間後 【 4/1頃 】 	黒星病 ハマキムシ類	1. 展着剤 2. デランフロアブル 1,000倍 (100cc) 3. ダーズバンDF 3,000倍 (33g)	250㍗
2	開花直前 (風船状態) 【 4/11頃 】 	黒星病 赤星病 アブラムシ類 <div>この回を、極端に 早くならないよう に注意！</div>	合ピレ剤使用可能地域 1. 展着剤 2. オキシラン水和剤 500倍 (200g) 3. アンビルフロアブル 1,000倍 (100cc) 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) 1. オキシラン水和剤 500倍 (200g) 2. アンビルフロアブル 1,000倍 (100cc) 3. ウララDF 4,000倍 (25g) ※合ピレ剤使用可能地域ではアブラムシ類の発生が多い場合は、ウララDF 4,000倍(25g)も使用する。 ※今回以降、低温による生育の遅れで次回との散布間隔が10日以上あきそうな場合は、チオノックフロアブル500倍(200cc)を散布する。	300㍗
3	落花直後 【 4/21頃 】	黒星病 赤星病	1. 展着剤 2. スコア顆粒水和剤 4,000倍 (25g) 3. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g)	300㍗

今回以降、黒星病の重要防除時期に入るので散布間隔を10日以上あげないよう注意する。
また、散布量10a当り300㍗を下回らないよう厳守すること。